

ご使用の際は、ご一報ください。

kankyou@slcn.ac.jp

4 ステップモデルによる事例検討

事 例

- ① 築地さんは、83歳の女性。2年前に夫を亡くしてから独居である。慢性関節リウマチのため両手・両足の関節に痛みと腫れと変形がある。
- ② 築地さんの息子から「先日、母が浴室で転んだとっている。食事もちろんとっているか心配だ。どんな様子か見てきてほしい」と地区担当の新富保健師に訪問依頼があった。
- ③ 訪問すると、築地さんは、「何とか生活しています。2週間前にお風呂場で転んでは、お風呂に入らず自分で体を拭いています。でもリウマチがあるから手が痛いよね……。今回はたいした怪我ではなかったけれど、外で転ぶのも怖いから、最近では医者に行く時以外は家にいることが多いのよ。食事はあるもので済ませています。」と話した。
- ④ 新富保健師は、築地さんの様子から、日常生活に困難があり、転倒の危険もあるため介護保険サービスについて説明し、その利用を勧めた。
- ⑤ 築地さんは、「介護保険のサービスについては、よくわかりました。でも今はまだ大丈夫。これまでもなんとか一人で生活できているし、できるだけ人に甘えたくない。お役所の世話にはなりたくないわ。サービスを入れて余計なお金がかかるのは困るし……。息子にも迷惑かけたくない。息子は一緒に暮らそうといってくれるが、生まれてからずっと暮らしているこの街から離れたくないの。」と言う。
- ⑥ 一人息子は53歳。妻と高校生の娘の3人暮らし。現在は、遠方に住んでおり、介護することはできない。
- ⑦ 新富保健師は、「築地さんの気持ちを大事にしたい。そして希望どおり一人暮らしを続けさせてあげたい。でも生活が困難になってきている。転倒も予防したい。保健師としてどうすればいいのかしら……。 」と悩んでいる。